

領父豐雄爲周防大目善繩幼而明慧骨詰非常財賡見爲奇童加意養育爲孫傾產曾无吝惜焉

〔三代實錄陽成三十九〕元慶五年正月是月諸衛多怪異略又東京一條兒童數百會聚相鬪作戰陣之法若成人之爲也

若成人之爲也

〔三代實錄陽成四十一〕元慶六年正月二日乙巳是日帝同產弟貞保親王同加元服即便授三品先是預詔勸學院藤原氏小兒高四尺五寸已上者十餘人加冠三月廿七日己巳天皇於清涼殿設酒宴慶賀

皇太后四十之算也略中雅樂寮陳鼓鐘童子十八人遞出舞殿前先宴二十許日擇取五位以上子有

容貌者於左兵衛府習舞也貞數親王舞陵王上下觀者感而垂淚舞畢外祖父參議從三位行治部卿

在原朝臣行平候舞臺下抱持親王歡躍而出親王時年八歲

〔大鏡裏書下〕大井河行幸事

延長四年十月十九日天皇醒幸大井河法皇多同幸雅明親王子時七歲舞萬歲樂舞間曲節不

誤主上脫半臂給親王拜舞又有勅令帶劔

〔扶桑略記村上二十六〕應和四年元康保十一月廿一日酉時定額僧淨藏入滅略中母夢天人來入懷中覺

後有娠月滿誕生僅及四歲讀千字文穎悟拔萃聞一知二略下

〔榮花物語十一〕一條條殿院の上の尼上故の宮たちみたてまつりしにわが

いのちはこよなうのびにたりいまは中宮のひめみやの禰をだに見奉らではとなんの給はす

ればとてのうへのおまへの長妻倫道さるべきひまをおほしめしければかうくこのみや

なんこの比こに出させ給へるよきおり也ゐて奉らんと一條殿に聞えさせたまへればいと

うれしきことなりとてにはかに御まうけしいそがせ給ひめ宮の御めのとどもにはうへのお

まへみえさせ給はねばうへの御くるまに宮子の禰をばのせたてまつらせ給て御めのとた

ちこと女房くるま一りやうしてたのひとくおほかたの車みつばかりにてわたらせたま